

## 福岡県における自治体肝炎ウイルス検査の実態と陽性者 follow up 研究 3年間のまとめ

研究分担者：井出 達也 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 准教授

**研究要旨：**福岡県において、県、および市で行っている肝炎ウイルス無料検診について、陽性率や陽性者のフォローアップ状況を調査した。この事業は福岡市、北九州市、久留米市、大牟田市の4つの市と、上記の市以外の計5つの地区に分かれて事業が行われている。調査の結果、H24年度からH30年度は毎年2.5～3.0万人程度検診を受けており、とくに減少傾向などはなく安定した検診数であった。B型肝炎陽性率は0.7～1.0%で年度により変化ないが、C型肝炎陽性率はH24～H26年度0.78～0.99%であったのに対し、H27～H30年度0.52～0.79%と若干減少し、H30年度が0.50%と最も低かった。H30年度を地区別に見ると、福岡県南部(久留米市、大牟田市)が北部(福岡市、北九州市)にくらべ、C型肝炎の陽性率が高かった。ウイルス肝炎陽性者のフォローアップ率は、比較的高く、その理由として保健師などが患者に直接電話してフォローしていた。福岡市では、陽性者の人数も多く、フォローアップは医療機関に依頼していた。  
**まとめ：**福岡県無料検診における肝炎ウイルス陽性率、フォローアップ率が明らかになったが、いまだ一定数の陽性者がおり、検診を促進することが必要と考えられた。フォローアップ率は比較的良好であるが、さらなる充実に工夫する必要があると考えられた。

### A. 研究目的

自治体主導の（基本/特定/がん）健診時（特定感染症検査等事業）に行われる肝炎ウイルス検診等により、福岡県でも毎年多くの県民がウイルス性肝炎の検査を受けている。今回H24年度からH30年度までの検診受検者数と陽性率、フォローアップ率などを解析し、また地区別にも検討し、問題点などを抽出した。

### B. 研究方法

福岡県では、この事業は福岡市、北九州市、久留米市、大牟田市の4つの市と、上記の市以外の計5つ地区に分かれて事業が行われ、結果が集積されている。またB型(HBs抗原)、C型肝炎ウイルス(HCV抗体)別にも統計が取られている。

検討1) H24年度からH30年度の福岡県全体におけるB型およびC型の受検件数と陽性

率を算出した。

検討2) H30年度の5つの地区別の受検件数、陽性率を算出した。

検討3) 4つの市の人口あたりの受診率を算出した。厳密な受診率は困難であるので、市の人口に対する受診者数で表示した。

検討4) 地区別の陽性者数とフォローアップ率について算出した。フォローアップとは、陽性者が検診後に医療機関を受診しているかが確認できた例とした。受診していない患者は受診勧奨し、受診まで至ったことを確認できた患者もフォローアップありとした。

### C. 研究結果

検討1：福岡県全体におけるB型およびC型の受検件数と陽性率を示す。B型肝炎はH24年からH30年まで受検人数は25,000人から30,000人程度であり、陽性率は0.7～

1.0%であり変化なかった。一方、C型肝炎の受検人数はB型肝炎と同じであるが、陽性率はH24～H26年度0.78～0.99%であったのに対し、H27～H30年度0.50～0.79%と、次第に陽性率が低下していることが判明し、H30年度が0.50%と最も低かった。

福岡県全体でのB型肝炎受検者数の年次推移と陽性率

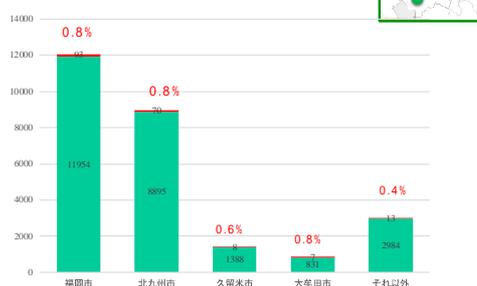


福岡県全体でのC型肝炎受検者数の年次推移と陽性率



**検討2:** H30年度の5つの地区別の受検件数、陽性率を示す。大都市である福岡市、北九州市の検査数は多いが、B型肝炎陽性率は、各地区に差はなかった。一方、C型は久留米市、大牟田市の県南部が、北部に比べて有意に陽性率が高かった(p=0.02)。

H30年度地区別B型肝炎検査数と陽性率

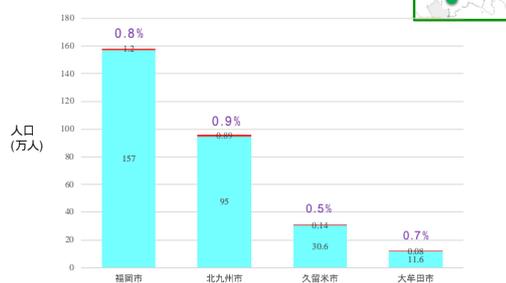


H30年度地区別C型肝炎検査数と陽性率



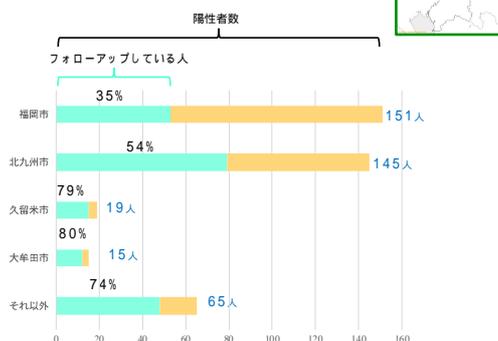
**検討3:** 4つの市の人口あたりの受診率を概算した。久留米市は0.5%と低かったが、残りの3市は0.7～0.9%であった。

人口1万人からみたB型肝炎検査数(年H30)



**検討4:** H29年度の地区別の陽性者数とフォローアップ率を示す(H30年度はデータ集積中のため解析不可)。ウイルス陽性者数は検査数の多い、福岡市や北九州市で多かったが、フォローアップ率は人数の少ない久留米市、大牟田市が高かった。北九州市は、統計のずれがあるため、実際のフォローアップ率はもう少し高いとの報告を受けた。ウイルス肝炎陽性者のフォローアップ率は、比較的高く、保健師などが患者に直接電話や、郵送などでフォローしていた。一部、外国籍や移転などで、フォローできない患者もいたとのことであった。福岡市では、フォローアップは検査を行った医療機関に依頼していた。

## H2 年度のウイルス陽性者数とフォローアップ率



### D. 考察

福岡県における肝炎ウイルス検査数は、25,000人から30,000人程度で、観察期間中大きな変動はなく、横ばいであることがわかった。B型肝炎ウイルスの陽性率の推移は変わらないが、C型肝炎ウイルス抗体の陽性率は次第に陽性率が減少していることが観察され、C型肝炎患者は減少していると考えられた。

地区別に見ると、B型肝炎は地区によってその陽性率に変化はないが、C型肝炎は、福岡県南部で有意に多いことが判明した。以前より福岡県南部は北部に比し肝炎患者が多いと考えられていたが、現在もそれは持続していることが明らかとなった。

地区別のフォローアップ率は、福岡市、北九州市で低かった。しかし、北九州市での統計は調査期間のずれから実際はもう少し高いと報告を受けているため参考値である。福岡市でフォローアップ率が低い理由として、福岡市では陽性者がいた場合、その後受診状況の検査を行った医療期間に確認しているのみであるのに対し、福岡市以外では陽性者に保健師などが、直接電話したり、つながらない場合は、手紙を郵送するなどして、細かな対応を行っていた。手間がかかるがこのような対応を行うことが必要であると考えられる。しかしながら、福岡市は人口も多いため陽性者の人数も多く、フォローアップを行うことは容易では

ないとも考えられる。また都市部は住民の移動や外国人も多くフォローアップが困難な例も多いと聞く。今後はこのような都市部でのフォローアップをいかに効率よく行うことが重要と考えられた。

### E. 結論

福岡県ではウイルス肝炎の無料検診は、毎年2.5～3.0万人程度安定して受けている。B型肝炎の陽性率は変化ないが、C型肝炎は若干減少している。C型肝炎は福岡県南部で陽性率が高かった。フォローアップ率は、直接患者に連絡すると比較的高かった。

最後に、福岡県無料検診における肝炎ウイルス陽性率、フォローアップ率が明らかになったが、いまだ一定数の陽性者がおり、検診を促進するとともに、フォローアップも充実させる必要があると考えられた。

### F. 政策提言および実務活動

#### <政策提言>

福岡県および各市から福岡県の受検状況やフォローアップ状況を聴取し解析した。その結果より、検診受検率やフォローアップ率上昇のための工夫などを提案した。

#### <実務活動>

福岡県は、リーフレットの配布を行った。市政だより等にも情報を載せて、さらなる受検、受診を促進し、肝炎撲滅に取り組んでいる。

### G. 研究発表

#### 1. 発表論文 なし

#### 2. 学会発表

- \* 井出達也：「福岡県における肝炎ウイルス検査陽性者の精密検査受診率の検討」メディカルスタッフセッション2，肝臓 60 suppl(1),A296. 2019  
メディカルスタッフセッション記録集 MP 2-33, p91, 2019

### 3. その他

#### 啓発活動

- \* 井出達也：講演「C型肝炎の完全撲滅を目指して」市民公開講座、  
平成 29 年 9 月 9 日  
主催：福岡県肝疾患相談支援センター
- \* 井出達也：講演「C型肝炎 飲み薬でみんな治ってしまいます」市民公開講座、  
平成 30 年 10 月 13 日  
主催：福岡県肝疾患相談支援センター
- \* 井出達也：講演「C型肝炎:まだ調べてない人、いませんか？」市民公開講座、  
令和元年 10 月 19 日  
主催：福岡県肝疾患相談支援センター

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし